
日本科学哲学会 第47回(2014年)大会

期日：11月15日(土)・16日(日)

場所：南山大学 名古屋キャンパス

大会参加費：1,000円(非会員の方でもご参加いただけます)

所在地：〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18

交通案内：

地下鉄名城線：名古屋大学駅1番出口より徒歩約8分

地下鉄名城線：八事日赤下車駅より徒歩約8分

地下鉄鶴舞線：いりなか駅1番出口より徒歩約15分

※大会中に託児を希望される会員には補助金を支給します。

11月15日(土)

研究発表 (9:30-12:00)

《A会場(R52教室)》 司会：1-2 岡田光弘(慶應義塾大学)、3-5 岡本賢吾(首都大学東京)

1. 生田隆芳(京都大学)・・・『論理哲学論考』のパラドックスにおける非決然的解釈の優位性
2. 浅野将秀(首都大学東京)・・・『論理哲学論考』における写像理論について
3. 菅崎香乃(筑波大学)・・・『哲学探究』における「心理的雰囲気」—ウイトゲンシュタインの「心理(学)」概念の系譜的観点から—
4. 井原奉明(昭和女子大学)・・・複数事態把握とアスペクト盲の問題
5. 重田謙(長岡技術科学大学)・・・独我論は論駁されたのか—意味の实在論と反实在論との対立の帰趨—

《B会場(R53教室)》 司会：1-2 戸田山和久(名古屋大学)、3-5 古田智久(日本大学)

1. 鈴木雄大(日本学術振興会・専修大学)・・・行為すべき理由は欲求に基づくか
2. 鴻浩介(東京大学)・・・規範性問題と実践的合理性
3. 蝶名林亮・・・自然主義的道德实在論：説明的論証擁護のための二つの戦略
4. 飯島浩之介(名古屋大学)・・・自然主義的リバタリアニズムに望みはないのか
5. 鈴木生郎(慶應義塾大学)・・・同一性の基準と単純説

《C会場(R54教室)》 司会：1-2 中山康雄(大阪大学)、3-5 服部裕幸(南山大学)

1. 和泉悠(大阪大学)・・・Propositions as Mental Event Types
2. 秀瀬真輔(国立精神・神経医療研究センター)・・・精神医学の科学性について
3. 大橋雄太郎・・・意識を物理的に理解するとはどういうことか(ニコラス・ハンフリーの物理主義とともに)
4. 加戸友佳子(神戸大学)・・・科学的認識における客観と主観—マルクス学位論文を題材として—
5. 高田敦史・・・ストーリーはどのような存在者なのか

ワークショップ (9:45-12:00)

《E会場(R49教室)》

1. ゾンビと点滅論法と哲学的論争

オーガナイザ：丹治信春(日本大学)、水本正晴(北陸先端科学技術大学院大学)

提題者：三浦俊彦(和洋女子大学)、前田高弘、水本正晴(北陸先端科学技術大学院大学)

コメンテーター：金杉武司(國學院大学)

理事会・評議員会・大会実行委員会 (12:00-13:30)

会場：R58教室

総会 (13:30-14:10 総会后、石本賞授与式を行います)

会場：B11教室

シンポジウム (14:15-16:45)

「数学を巡る思索」

オーガナイザー・提題者：竹内 泉 (産業技術総合研究所)

司会者：岡本 賢吾 (首都大学東京)

提題者：野本 和幸 (東京都立大学・創価大学)、菊池 誠 (神戸大学)、蓮尾 一郎 (東京大学)

会 場：B11 教室

特別講演 (16:55-17:55)

講演者：金 承哲 (南山大学)

講演題目：キリスト教神学・宗教・科学

司 会：戸田山 和久 (名古屋大学)

会 場：B11 教室

懇親会 (18:00-20:00)

会費：一般 5,000 円 学生もしくは求職中の研究者 3,000 円

会場：第一食堂 (C 棟 1 階)

11月16日 (日)

ワークショップ (9:45-12:00)

《E 会場 (R49 教室)》

II. 生物はどのように同一とみなされるべきか

オーガナイザ：森元 良太 (北海道医療大学)

提題者：網谷 祐一 (東京農業大学)、植原 亮 (関西大学)、鈴木 大地 (筑波大学)、鈴木 誉保 (農業生物資源研究所)

《F 会場 (R31 教室)》

III. 哲学的因果論と個別科学の接点

オーガナイザ：松王 政浩 (北海道大学)

提題者：新納 美美 (北海道大学)、会場 健大 (北海道大学)、草野 原也 (北海道大学)、本間 真佐人 (北海道大学)、神田 あかり (北海道大学)

理事会・編集委員会・大会実行委員会 (12:00-13:00)

会 場：R58 教室

研究発表 (13:15-14:45)

《A 会場 (R52 教室)》 司会：柏端 達也 (慶應義塾大学)

1. 竹 下 至 (中京大学) 目的意味論の擁護と因果説批判
2. 勝 亦 佑 磨 (東京大学) 行動と表象—ドレツキ行動論の再検討
3. 信 原 幸 弘 (東京大学) 将来自己の表象

《B 会場 (R53 教室)》 司会：松本 俊吉 (東海大学)

1. 木 田 翔 一 (千葉大学) 認識的二次元意味論と概念変化
2. 加 納 寛 之 (大阪大学) 社会認識論における Gap Argument の検討
3. 笠 木 雅 史 (日本学術振興会・京都大学) 哲学理論の正当化とは何か

《C 会場 (R54 教室)》 司会：飯田 隆 (日本大学)

1. 大 西 琢 朗 (日本学術振興会・首都大学東京) 様相演算子としての否定
2. 後 藤 英 樹 (東洋大学) 結び目の哲学
3. 鈴 木 聡 (駒澤大学) 現象的ソリテス・パラドクスと Goodman の順序理論の測定理論的分析

《D 会場 (R55 教室)》 司会：丹治 信春 (日本大学)

1. 中 山 康 雄 (大阪大学) 生物の存在論と人工物の存在論
2. 石 田 知 子 (慶應義塾大学) メタファーとメカニズム的説明の関係について—分子生物学における情報概念の考察から—
3. 福 井 誠 人 (慶應義塾大学) 量子力学創設期における実在をめぐる論争—アインシュタインとボーアの議論から—

ワークショップ (15:00-17:15)

《E会場 (R49教室)》

IV. 生物言語学と生物科学におけるメカニズムについて

オーガナイザ・提題者：上田 雅信 (北海道大学)

提題者：藤田 耕司 (京都大学)、中尾 央 (総合研究大学院大学)、菅原 裕輝 (京都大学)、尾島 司郎 (滋賀大学)、
香田 啓貴 (京都大学霊長類研究所)

《F会場 (R31教室)》

V. クリティカルシンキングと合理性

オーガナイザ・提題者：横山 輝雄 (南山大学)

提題者：伊勢田 哲治 (京都大学)、太田 紘史 (東京大学)、久保田 祐歌 (愛知教育大学)

『科学哲学』バックナンバー

4 (1971年)	24 異文化理解の基礎	38-1 (2005年)
5 (1972年)	28 カオスをめぐって	38-2 フレーゲの現代性
6 (1973年)	29 特集1 デュエムの科学哲学の現代的意義	39-1 (2006年)
7 記号・情報・論理	特集2 サイバネティクス	39-2 相対性理論 100年
8 行為の理論	30 近代における科学と哲学	40-1 (2007年)
9 様相論理学	31-1 (1998年)	40-2 数学の論理と哲学
10 心身問題と道徳	31-2 生物学的説明	41-1 (2008年)
11 解釈とモデル	32-1 (1999年)	41-2 非合理性とは何か
12 言語と非言語	32-2 医療の哲学に向けて	42-1 (2009年)
13 社会科学と哲学の間	33-1 (2000年)	42-2 脳科学と社会
14 論理とは何か	33-2 心・生命・コンピュータ	43-1 (2010年)
15 科学哲学の展望	34-1 (2001年)	43-2 科学コミュニケーション
17 合理性とは何か	34-2 進化論から見た心と社会	44-1 (2011年)
18 志向性について	35-1 (2002年)	44-2 ロボット工学と哲学
19 言語理解	35-2 クワインの哲学—回顧と展望	45-1 (2012年)
20 意識・機械・自然	36-1 (2003年)	45-2 論理と確率
21 〈私〉の同一性	36-2 ラッセルのパラドックス・100年	46-1 (2013年)
22 科学と反一実在論	37-1 (2004年)	46-2 意思決定、学習、合理性
23 科学哲学の未来を問う	37-2 時間の実在性	47-1 (2014年)

購入を希望される方は、事務局までご連絡ください(1~3、16、25~27号は在庫切れです)。

下記のアドレスからインターネット上で公開されているバックナンバーが閲覧できます。

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jpsj/-char/ja>

●入会を希望される方は日本科学哲学会事務局までご連絡ください。

所在地：〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40 日本大学文理学部哲学研究室内

FAX：03-5317-9217

e-mail：philsci@pssj.info